

高体連ボクシングニュース vol.6

平成 30年 8月 6日 発行
全国高体連ボクシング専門部

5 日目（準決勝）の結果と 6 日目（決勝）の対戦カード

●ピン級

①坂本(青森)vs 荒竹(鹿児島) 1-4 荒竹 WP 勝ち

1R 両者ともにリードを多投し、自分の距離を探り合いながらチャンスを伺う。坂本はキレのある右ストレートを放つも、荒竹は左右の連打で応戦する。3R に荒竹の左ストレートが連続ヒットし、リズムをつかんだ。結果は僅差の判定で荒竹が決勝進出を果たした。

②平野(大阪)vs 小川(岐阜) 5-0 平野 WP 勝ち

平野は1R からパンチに切れがあり、ノーモーションからの左ショート、軽快なフットワークからの攻撃で、リードする。対する小川も飛び込んでパンチを放つも、有効打が奪えず苦戦する。3R に入っても平野のスピードは落ちず、的確にパンチをヒットさせ、判定勝ちした。

決勝戦 荒竹 一真(鹿児島) vs 平野 拓真(大阪)

●ライトフライ級

③藤田(神奈川)vs 高見(東京) 3-2 藤田 WP 勝ち

関東勢同士の対決、1R 高見は右ストレートをからの左フックを使い試合を展開する。2R 藤田もボディからの攻撃を展開し、優劣つけがたいラウンドが続く。3R も両者質の高いパンチの応酬でラウンド終了。判定は僅差の判定で藤田が決勝進出を果たした。

④堀川(栃木)vs 保坂(広島) 5-0 堀川 WP 勝ち

1R 保坂は堀川の出足の鋭さを警戒して距離を取って戦うに対し、堀川は果敢にパンチを放ってくる。2R に入り、堀川は右のクロスからの左フックでダウンを奪い、試合を有利に進め勝利した。

決勝戦 藤田 時輝(神奈川) vs 堀川 龍(栃木)

●フライ級

⑤安達(大分)vs 福来(岩手) 3R RSC 福来勝利

1R 福来は開始早々に右ストレートでダウンを奪い試合を優位に進める。安達もパンチをかいくぐり、反撃に転ずる。しかし3R 福来が前に出ながらの連打でダウンを奪い、レフリーが試合をストップした。

⑥梶原(広島)vs 矢野(愛媛) 4-1 梶原 WP 勝ち

1年生同士の戦い。両者 UJ 時代からのライバルであり、どちらとも負けられない戦いであった。梶原は、堅実なボクシングで、相手の攻撃に対して、素早くかわし、ショートパンチをヒットさせる。矢野も変則的な動きからパンチを繰り出すも、決定打にならない。各ラウンド共に見せ場を作り、もつれた試合は梶原が僅差の判定で決勝に進出した。

決勝戦 福来 龍神(岩手) vs 梶原 嵐(広島)

●バンタム級

⑦根本(栃木)vs 橋本(岐阜) 3-2 根本 WP 勝ち

1R 橋本は力強いワンツー左フックで攻撃をしかける。根本も2R に入りギアをチェンジしてパンチを放ちながら前に出る。3R は距離を詰めての乱打戦に。判定は僅差の判定で根本が勝利した。橋本も地元の声援を受け、最後の1秒まで諦めず戦う姿に感動した。

⑧吉田(群馬)vs 大畑(静岡) 5-0 吉田 WP 勝ち

1R 吉田は的確にワンツーを合わせる。大畑も先手を奪おうと、グローブを巧みに動かし、一瞬のスキを見逃さずパンチを放つ。3R に吉田は強烈な右ストレートをヒットさせ勝利をつかみ取った。

決勝戦 根本 元太(栃木) vs 吉田 黎斗(群馬)

● ライト級

⑨堤(宮崎)vs 堤(千葉) 2-3 堤麗斗 WP 勝ち

堤(千葉)は、出入り鋭く左のリードからボクシングを展開する。堤(宮崎)は、ロングレンジから一気に距離を詰め、ボディからの切り返しがヒットする。堤(宮崎)の打ち終わりに堤(千葉)のパンチが有効打となる。審判も各ラウンドにおいて難しい判定に、場内も息を飲む。場内アナウンスは青コーナー堤(千葉)をコールし、見事決勝戦にコマを進めた。

⑩石井(埼玉)vs 木谷(大阪) 5-0 石井 WP 勝ち

1R 石井は動きもよく左フックから鋭く右ストレートで試合をリードする。2R 木谷も相手のパンチをうまくかわし、すかさずワンツートをヒットする。3R 木谷が前に出てくるのを石井も下がりながらもパンチを繰り出し、クリーンヒットを奪う。判定の結果石井が決勝にコマを進めた。

決勝戦 堤 麗斗(千葉) vs 石井 渡士也(埼玉)

● ライトウェルター級

⑪本間(北海道)vs 由良(兵庫) 2-3 由良 WP 勝ち

本間、由良ともに相手をけん制しながら様々な攻撃を試みるも決定打が奪えない。2R 本間が右ストレートがヒットするも由良も負けずに打ち返す。3R 接近戦から由良が鋭くリードを突き、本間の出足を止め、そこにワンツートをヒットさせ僅差の判定で由良が勝利した。

⑫森本(栃木)vs 脇田(宮崎) 3-2 森本 WP 勝ち

1R 森本が攻勢をかける。力強い左右のストレートが脇田の顔面をヒットする。しかし脇田も渾身の右ストレートを打ち返し、一進一退の攻防を見せる。2R、3R も両者闘志むき出しに果敢に打ち合う。脇田が最後の力を込めて右ストレートを叩きこむ。ラスト10秒の打ち合いに会場も歓声が上がった。注目の判定は、森本が接戦を制した。

決勝戦 由良 謙神(兵庫) vs 森本 浩(栃木)

● ウェルター級

⑬宇佐美(大阪)vs 松久保(鹿児島)

3R RSC 宇佐美勝利

宇佐美は強烈なボディからのワンツート、右アッパーが効果的にヒットして、松久保の動きを食い止める。松久保も引きさがらず、果敢に攻撃をしかけるも、宇佐美は軽快なステップからの素早い攻撃でダウンを奪い、RSC 勝ちを収めた。

⑭黒田(広島)vs 金納(熊本) 5-0 黒田 WP 勝ち

黒田はしっかり踏み込んでの右ストレートが金納の顔面をヒットし、その後も攻めの姿勢を緩めず襲いかかる。金納も右ストレートに伸びがあるが、有効打が奪えない。黒田は2R、3R に細かいパンチを連続でヒットしダウンを奪い、判定で黒田が勝利した。

決勝戦 宇佐美 正 パトリック(大阪)

vs 黒田 丈二郎(広島)

● ミドル級

⑮野上(長崎)vs 河野(大分) 5-0 野上 WP 勝ち

九州勢同士の戦い、野上は相手の動きを見ながら徐々に距離を詰めプレッシャーをかける。河野はボディを多投し攻める。お互い接近戦からの攻防は、野上がボディから離れ際に左ストレートを合わせる。河野も負けずにパンチを放つが一步及ばなかった。

⑯時吉(宮崎)vs 須永(東京) 0-5 須永 WP 勝ち

須永は冷静な戦い方から、踏込みの効いた右ストレートで効果的にヒットを重ねていく。時吉も厳しい練習で培った精神力の強さを遺憾なく発揮し、攻撃をしかけたが、最後まで須永のペースを崩すことは出来なかった。判定で須永が勝利し決勝進出を果たした。

決勝戦 野上 昂生(長崎) vs 須永 大譲(東京)